

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第4回 LLW廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時 2008年4月24日 (木) 13:30~15:50
2. 場所 日本原子力発電(株) 第7会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
(出席委員) 阿部 (主査), 柏木, 坂下, 桜井, 高橋, 土生, 古谷, 山田 (基) (8名)
(代理出席委員) 吉田 (大浦代理), 熊野 (三本木代理), 山本 (関口代理) (3名)
(欠席委員) 岡本, 河西, 大浦, 中山 (4名)
(常時参加者) 伊藤, 大塚, 菊池, 野口, 御子柴, 三根, 山田 (隆) (7名)
(欠席常時参加者) 明里, 大間, 駒月, 藤井, 水井 (5名)
(事務局) 岡村
4. 配付資料
F9Ph2SC4-1 標準委員会の活動状況
F9Ph2SC4-2 第3回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会議事録案
F9Ph2SC4-3 標準本体、付属書(規定/参考)及び解説の全体構成について(案)
F9Ph2SC4-4 廃棄体の製作工程毎の品質確認項目と内容 (案)
F9Ph2SC4-5 廃棄体製作における事前準備段階の管理について (案)
F9Ph2SC4-6 分科会の進め方について (案)
F9Ph2SC4-7 廃棄体の技術基準を踏まえた分科会検討中の L1 廃棄体製作方法に係る要件
標準案の変更案
F9Ph2SC4-8 人事について
F9Ph2SC4-参考1 輸送・施設設計・安全評価の観点から廃棄体に期待される仕様について
5. 議事
 - (1) 出席委員の確認
事務局より、開始時点で代理出席委員を含め 11 名の委員の出席があり、分科会成立に必要な委員数 (10 名以上) を満足している旨の報告が行われた。
 - (2) 人事について (F9Ph2SC4-8)
事務局より、菊池 恂氏 (内閣府 原子力安全委員会事務局) より常時参加者登録の希望がある旨紹介し、承認された。

(3) 標準委員会の活動について (F9Ph2SC4-1)

事務局より、第31回標準委員会の状況について、専門部会構成の変更(3専門部会→4専門部会)を中心に説明が行われた。

(3) 前回議事録の確認 (F9Ph2SC4-2)

事務局より、第3回LLW廃棄体等製作・管理分科会の議事録(案)が紹介され、承認された。

(4) 標準本体、付属書(規定/参考)及び解説の全体構成について (F9Ph2SC4-3)

F9Ph2SC4-3に沿って、山本幹事代理より、標準の全体構成並びに本日説明する資料の位置づけについて説明が行われた。

(5) 廃棄体の製作工程毎の品質確認項目と内容 (F9Ph2SC4-4)

熊野委員より、F9Ph2SC4-4に沿って、廃棄体の製作工程毎の品質確認項目とその内容について、1Aaタイプの廃棄体を例として整理した結果の説明が行われた。

審議の結果、同様の整理を他の廃棄体タイプについても進めることとなった。

主な議論：

- ・ 溶接パラメータは、耐荷重強度にも影響するのではないかと。
 - 今回は、吊り上げに時に蓋溶接部に荷重がかからないタイプの容器であるため確認不要としたが、設計によっては必要になる。容器の設計、強度評価の結果、必要があれば確認することとする。
- ・ 汚染拡大防止措置の欄で、蓋取り付け段階の品質管理が溶接パラメータとなっているが、ボルト締めの場合もあるのではないかと。
 - ボルト又は溶接とする。
- ・ 整理番号のところ、③に○(履歴記録/廃棄体整理番号)となっているが、整理番号は容器に入れてから。ここは履歴記録のみと。
 - 修正する。
- ・ 最大放射能濃度を超えないためには、③や④でも履歴管理が必要と。
 - 容器への収納の④に○を追加する。
- ・ 1Aaタイプ以外も同様の整理をするのかと。
 - この整理方法で良いことが本日確認できれば作成する。
 - これで良い。
 - それでは、L2の管理を参考にできるような資料と合わせて次回以降提示したい。

(6) 廃棄体製作における事前準備段階の管理について (F9Ph2SC4-5)

F9Ph2SC4-5に沿って、柏木委員より、廃棄体製作における事前準備段階の管理につ

いて、附属書案並びに解説及び補足事項の説明が行われた。審議の結果、本文に記載すべきもの、解説ではなく附属書に含めた方がよいものを、本文作成時に再整理することとなった。

主な議論：

- ・4-4の資料と比べると、照合措置や最大放射能濃度等が抜けている。今後追加するのか。
 - 追加する。
- ・廃棄体製作部門と廃棄体製作責任者があるが同じではないか。
 - 統一する。
- ・ここで附属書としたものには本文に入れた方がよいものもあるが、解説及び補足から附属書に含めるものもあるか。
 - 附属書の解説は無いので、附属書の中に注記等で記載していくことを考えている。
- ・p 5の調達管理では、固型化の場合は充填剤も必要となる。
 - 書き分けが必要となるのはどの辺りか。
 - 汚染拡大防止の部分のみ。
 - 蓋をボルト締めする場合はどうか。
 - ボルトは容器の一部。ガスケットを使用する場合は該当するかもしれない。
 - 充填剤は、健全性を損なう可能性についても確認が必要となるのではないか。
 - 設計段階で検討し、必要なら製作段階で管理の追加となる場合もある。

(6) 分科会の進め方について(案)(F9Ph2SC4-6)

F9Ph2SC4-6に沿って山本幹事代理より、今後の進め方が説明され、了承された。

(7) L1 廃棄体製作方法に係る要件標準案の変更案(F9Ph2SC4-7, 参考3-1~3)

F9Ph2SC4-7に沿って、柏木委員より「廃棄体製作方法に係る要件」標準案の変更検討状況と、次回標準案として提示するとの説明が行われた。

主な議論：

- ・内容的な見直しは必要なのか。
 - 内容について変更する必要はない。構成のみ。
- ・J I Sと同等以上、あるいは有害な空隙が無いとの法令要求について、補足説明は不要か。
 - 説明を作ってみたが、法令解釈のようになってしまっているのでもう少しブラッシュアップが必要。
 - 自然に読める程度の補足でよい。
- ・法令の封入に対して密閉を使用するのはなぜか。
 - 法令の密封という言葉は、告示を見るとオープンドラム缶と同等の密封性と

なっており、それほど高いレベルの密封性を要求していないようであるが、良く分からない。標準では、密封性のレベルを具体的に定義しており、薬品関係で使用している密閉という用語を使用することとした。

→ 定義については再度確認して欲しい。

・第8条第2項第4号のところでは、“多量の”は不要ではないか。

→ 全く含まないと言い切らない方が良いかと考えて付けている。

→ 並べてみると違和感もある。再検討すること。

(8) 他の標準から廃棄体に期待される仕様について (F9Ph2SC4-参考1)

・もともと本標準は技術基準のみに適合するものとして作成している。答えられない部分があるのはやむを得ない。

6. その他

次回分科会は、6月2日(月)13:30～、場所は事務局にて調整することとした。

以 上